

山崎 敏（やまざきさとし）氏

卒業年：本科 平成 12 年 3 月、研究科 平成 13 年 3 月

専攻：酪農 住所：岩泉町



1 現在の経営概要

乳牛 経産牛 35 頭、育成牛 15 頭、草地 19ha

2 経営での担当部門、取組状況、経営の特徴など

農大を卒業後、北海道で 1 年半酪農の研修をして地元に戻り酪農経営を引き継ぎ、現在は家族 5 人で従事しています。就農後草地面積を拡大し、自給率を 100%にし、今の規模で最大限の生産を目指しています。乳牛改良にも力を入れており、自分で人工授精をしながら乳牛を改良し共進会の出品を目指しています。また、就農してからは経営関係はもちろんのこと、飼育牛 1 頭ごとの繁殖データなど細かなことも全て記録し管理しています。飼養管理や経営管理で問題点が見つかったときは、必ず過去のデータを詳細に検討することにより、解決策が見いだされ、収益の進捗管理や雌子牛の出生率を高めること、牛の繁殖成績など大いに役に立っています。この結果、1 頭あたりの産乳量が 9,500kg、平均分娩間隔は 400 日という成績が可能になりました。

また、地域では酪農家の研究グループを組織し、乳質改善、草地などさまざまなテーマに対して普及センターとも連携しながら改善に取り組んでいます。

3 就農しているなかでの苦勞、良かったこと

- 実際に経営者として、経営をしてみて、金銭面や労働力をうまく確保して回していく難しさを感じました。利益を上げることの難しさを実感しました。
- とにかく働くことで牛や草地から利益が返ってくることを知りました。働けば働くほど豊かになることだと思います。やる気、本気でやれば必ず利益は上がってきます。

4 農大での学生生活（役に立っていること、もっと勉強しておけばよかったこと、思い出など）

- 基本的な勉強をできたこと、たくさんの友人ができたことが良かったです。
- 今でも当時の教科書を読み返すことがある。本当に基本は大事だと思うので、もっと熱心に勉強しておけば良かったと思います。

5 将来の夢、目標

岩泉町の生乳の半分は、私の住んでいる大牛内地域で生産していますが、担い手が高齢化しています。若い担い手を育てていきたいと思い、小中学校の酪農体験や出前授業なども引き受けています。我が家の長女にも、若き酪農の担い手として活躍することを期待しています。

6 在校生への激励メッセージ

農業で家族を養っていくことは、本当に大変な時代ですが、肝を据えて強い信念を持って頑張ってもらいたいと思います。

7 HP、ブログ、Facebook の有無

なし。

8 取材後記（取材職員記入）

山崎さんは 4 世代が同居する 8 人家族です。奥様とは北海道研修の時に会ったことが縁になったそうです。子供さんは 3 人も娘さん。長女には北海道のリードマンコンテスト（牛引きのコンテスト）に出場させたいと、将来の後継者としても期待していました。山崎さんは全ての記録をデータとして残しているそうですが、これらがいろいろな場面で役に立っているとのこと。質問に対しても裏付けられたデータをもとに自信をもってテキパキとお話ししていただきました。まさに、これからの農業経営者として最も重要な経営マネジメントを実践していることはぜひとも見習いたいものです。

